



地域の声を県政につなぐ
『何かニュースはありませんか?』
意見・提案なんでもお知らせください。



静岡県議会議員
いつわかい
五輪会
自民改革会議



おち あい しん ご
落合慎悟

静岡県議会報告
平成23年1月31日号(年4回発行)



2010年12月31日までの自民改革会議所属議員

1月1日から自民改革会議が県議会第一会派になりました

平成21年11月に自民党県議団から脱会し、18人で結成された議会会派「自民改革会議」は1～3期生が執行役員となり、4期以上は顧問として支えるという体制で22年12月まで運営してきました。ところが、昨年暮れになり、自民党県議団会派14人が会派を解散、自民改革会議に入会したいとの申込を受け、了承することになった。受け入れには反対もあったが、4月の統一地方選挙があるため、入会者は無役という条件を付け受け入れた。1月1日から自民改革会議は32人の大所帯となり、第一会派で議場の席も左側に移動することとなった。議場では、この1年間、会派の分裂や合併等で議会開催のたびに議場席を移動していた。

県議会だよりクイズの応募状況と意見内容 県議会だより第71号 (9月定例議会号 平成22年11月7日発行)

県議会だより第71号のクイズ応募総数877通で意見等が767件寄せられた。今回のクイズ解答は議員定数でした。抽選で20名の方に「ふりーらフルーラ」が当たりました。

県民からのご意見(一部) (県議会・静岡県に対するご意見をいつでも受け付けます。)

議会だよりの内容、質問と答弁で、各質問項目と議員名を明示してほしい。議員定数削減よりも給与を減らすことが必要と考えます。諸手当を含めどの程度か知りたい。議員定数を減らすには理由があると思うが、民意が届きにくくなる。工夫が必要。県議会の様子をTV中継してほしい。神奈川県にはTVKがあります。事業仕分け、国でも行われ注目されていますが、無駄をなくす仕分けを盛んにしてほしい。静岡空港の初年度赤字が16億円、今後の運営が黒字になるよう努力と責任を望みます。TEL「#8000」のような子供の病気の相談窓口があるように、『医療・健康相談電話』が欲しい。県立こども病院の看護師がおこなっているHPSの利用活動を、一般病院でも普及してほしい。山梨県などと比べて、障害者手帳で入館できる施設が静岡県は少ない、何とかしてほしい。今回のクイズのように静岡県産の農産物を使った商品をもっと県としてアピールしてほしい。

落合慎悟県議は議会広報委員です。

クイズ景品の紹介



※いちご(紅ほっぺ)・トマト(アメーラ)・お茶(静岡茶)の3種類

「ふりーらフルーラ」は、デザートトッピング用の新感覚ふりかけです。アイスやヨーグルト、パンなどにふりかけてお召上がりください。

市内の駐車禁止規制に対するご意見を下さい。(交通安全対策も)

『公園の周りが駐車禁止で子供と遊べない。駐車禁止解除して欲しい』
『家の前にずっと車を置かれても困るが、少しの時間可能にして欲しい』

平成22年3月3日完成、藤枝駅前通り(北口)駐車帯
駐車可能時間帯10:00～13:00,14:00～17:00
便利です。ぜひ、買い物等にご利用ください。



便利な駅前無料駐車帯

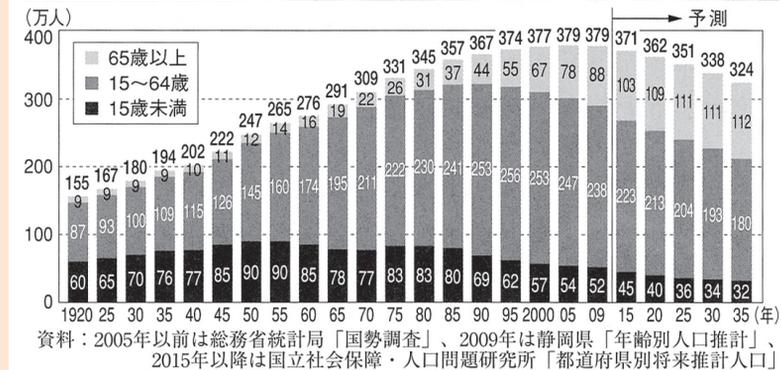
平成20年3月に商店街婦人部より、駅前通り駐車禁止解除の陳情を受け、県警と「全国の例を参考に」に解除の方向で協議に入りました。9月には商店組合に専門委員会を設置し、地元自治会とともに署名活動を行い、市担当部、市議会に働き掛け、警察署、県土木の許可と市の補正予算化で22年3月3日に完成しました。早一年が経過しますが、この駐車帯施工は全国的にも珍しく県内からも視察に見えています。事故がなく便利なのでこれから拡大を働き掛けていきます。



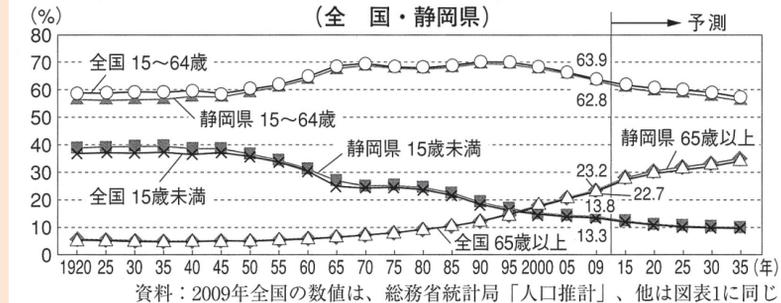
何回も協議した

静岡県の高齢化の構図 (財)静岡経済研究所 SERI研究季報2010 II号より

図表1 静岡県の年齢階層別人口推移



図表2 年齢階層別の人口構成の推移



静岡経済研究所から送られた研究季報に静岡県の人口構成が載ったので採り上げた。我が国の人口は、2007年をピークに、すでに減少に転じている。1920年の調査開始以来、右肩上がり増加を続けてきた静岡県の総人口は、2008年の379万8258人をピークに減少している。(図表1) 年齢階層別にみると、65歳以上の老年人口は、1920年以降増加し、2009年時点で88万人、高齢化率23.2%と静岡県も本格的な高齢社会に突入している。(図表2) 生産年齢人口と老年人口の比率を見ると、30年前の1980年には、1人の高齢者に対して7.4人の現役世代がいたのに対し、2009年には、高齢者1人に対して現役世代は2.7人に減少しており、1人当たりの高齢者を支える現役世代が、急速に減少していることがわかる。また、今後20年間に県全体で約40万人の人口が減少するとみられ、現在の焼津市、藤枝市、島田市の合算人口に匹敵する人口が消滅することになる。さらに、生産年齢人口は195万人と2009年に比べ45万人減少するほか、若年人口は34万人と、同19万人減少する。一方65歳以上は111万人と23万人増加し、高齢化率も32.9%まで上昇する。

22年度静岡県学校基本調査結果

図2 小学校、児童数、教員数の推移

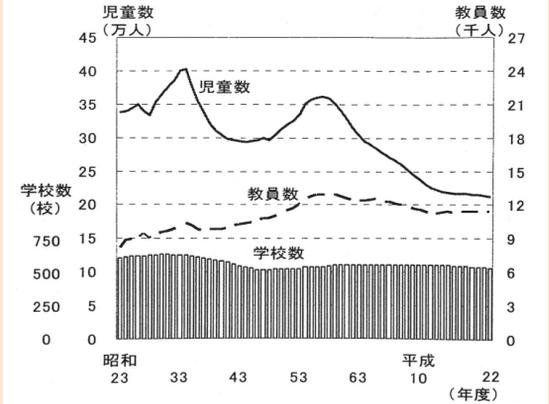


図4 小学校の長期欠席者の推移

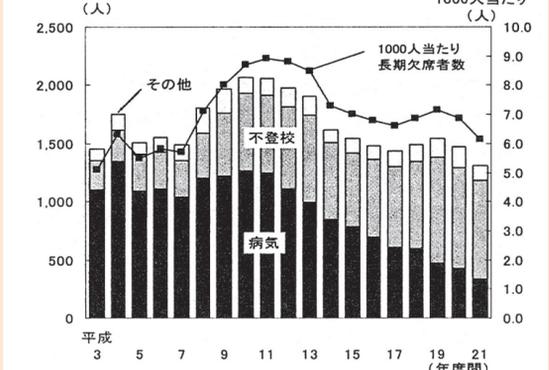


図5 中学校数、生徒数、教員数の推移

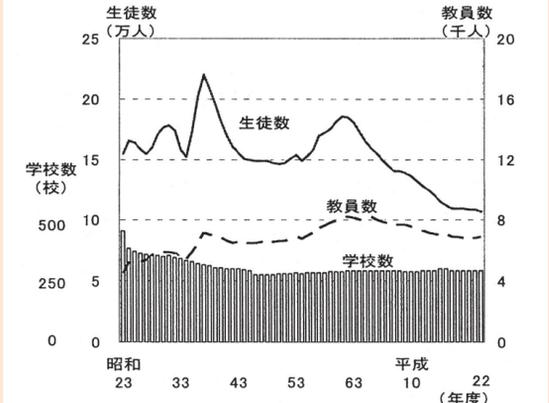
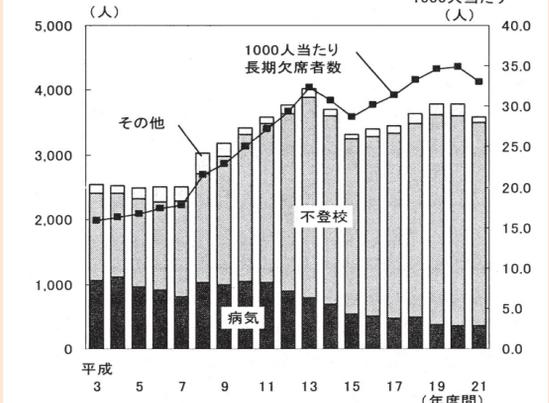


図7 中学校の長期欠席者の推移



過疎・中山間地域振興特別委員会報告 副委員長 落合慎悟

『過疎・中山間地域の振興による地域力の維持・向上に関する事項』を付託調査事項として、平成22年5月18日に設置され、委員会は6回開催された。

この間、執行部に対し、都市との交流促進、県産材の需要拡大、地域での人材育成・確保、伝統芸能の保存継承等、過疎・中山間地域振興に向けた取り組みについて説明を求め、現時点で行っている施策や今後実施しようとしている事業計画等について調査を行うとともに、当面取り組むべき課題について指摘した。

また、過疎・中山間地域が多く高齢化が進んでいる鹿児島県において、地域おこしに取り組んでいる自治会や過疎対策の提言を行った鹿児島県議会などの調査を行った。

さらに、過疎地域である浜松市天竜区佐久間町において委員会を開催し、長年にわたり、地元に住居して、地域再生のためタクシー事業や交流事業を展開しているNPO関係者、食品の加工製造・販売を共同で行っている住民、都市部から移住してきた住民から意見陳述を求めた。また、天竜区内において急傾斜地の乗用モノレールなどの視察を行った。

提言案(要旨)(2月定例会に委員会として提言いたします。)

提言1 組織体制の強化と市町との連携強化

- ①組織体制の強化 総合的施策展開を行う専門部署が必要。地域支援局を機能強化。
- ②市町との連携強化 各々の地域にマッチした人材の確保・育成を県が積極的に支援。

提言2 地域の課題に応じた施策の展開

- ①地域の課題と施策展開 地域により課題は異なる。細やかな分析と施策展開が必要。
- ②モデル地区設定による推進 モデル地区を研修の場として地域再生を波及していく。

提言3 企業等との協働推進と県民意識の啓発

- ①企業等との協働推進と情報発信 一社一村運動等の活動を発展させ、話題性も提供。
- ②森林等に対する県民意識の啓発 森林等への県民意識の啓発や学校の教育が必要。

提言4 国への働きかけ

耕作放棄地の利用の制限や鳥獣被害対策など県が迅速に対応できる法規制の緩和。



執行部からの説明



霧島市の山ヶ野金山



鹿屋市の柳谷自治会



村おこしの豊重自治会長



鹿屋市みどりの停車場



鹿児島県議会事務局



佐久間町NPO活動意見



龍山地区活性化施設